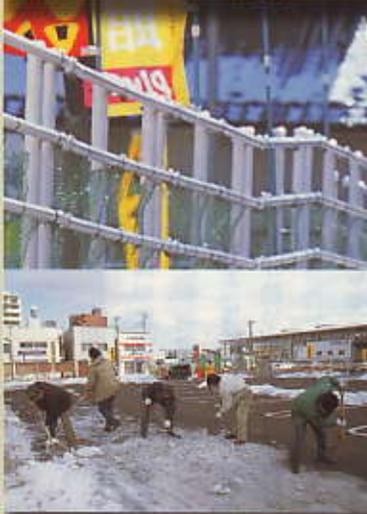
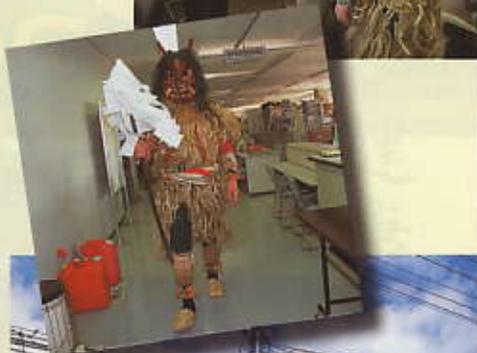


人と人のつながりで寒さを吹き飛ばし福を呼ぼう

「ちょこっと早い節分まつり」

宮城・仙台市 まちづくりしてみ隊 奇想天街

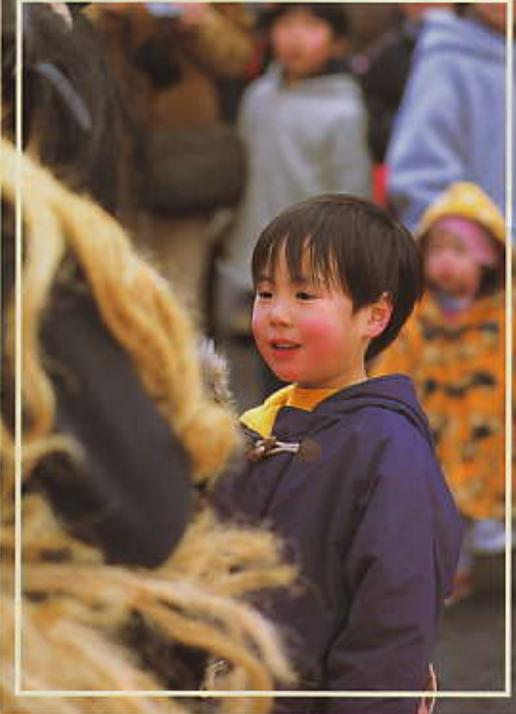




千葉博康宮城野区長のあいさつの真っ最中、恐ろしい形相で大きな出刃包丁を振りかざしながら「ウォー、泣ぐ子はいねがぁ」と奇声を上げながらなまはげ乱入。「不景気だががんばれエー」と勇壮ななまはげ踊りを披露し、観客たちの視線を釘付けにした。

このなまはげ、実は秋田の男鹿からやって来た本物だ。まつり前日にPRのため仙台駅でデモンストラーションをし、その場で会場付近の住宅街を練り歩いた。なまはげの本身は、男鹿市役所の菅原正幸さんと新聞社の佐藤真一さんの二人。佐藤さんは「仙台はいいなあ。なまはげ見て本気で驚いてくれるよ」と満悦だ。そんななまはげだが、弱い者いじめというイメージが強いかもしれない。しかし本来は「怠け者をこらしめる」が語源だと菅原さんは教えてくれた。そもそもこのまつりになまはげを呼ぼうと男鹿市役所に相談したところ「なまはげは福の神であって、鬼ではありません」と断られた経緯がある。再度小松さんが電話をしてなまはげを鬼として呼ぶのではないかと隊の想いを切々と訴えた。その電話を受けたのが誰であろう菅原さんだったのだ。縁は異なるものの味なもの、である。菅原さんはなまはげの正しいイメージを伝えるために一回目からずっとなまはげを買って出ている。

イベントの皮切りは「鬼仮装コンテスト」。今年は八組の申し込みがあった。空き箱で新幹線はやてとこまちを作って鬼の仮装をした女の子が紐を引っ張ると連結する、などアイデアは様々。せっかくイベントをやるのだから市民参加にしようとした。ハフォーマンスでもこじつけでもなんでもOK。各賞の名称にも工夫を凝らしている。い



くつか紹介すると、アウトドアグッズ詰め合わせの「アウトドアであそびま賞」、ぬいぐるみは「子供心を取り戻しま賞」、お酒は「おいしいお酒を飲みま賞」などなど。ちょっとしたところに遊び心が顔を出す。

そして来場者一番のお待ちかね「豆まき」が始まる。宮城野区役所正面入口前は大勢の人だかりだ。四個に一個の割合で番号の付いた紙が入っている。これを引換所で景品と引き替えるのだ。「正直なところ四五百人も来てくれれば大成功と思っていました」と言う小松さんの言葉をはるかに超える千人が第一回のまつりに来てくれた。今回は二千人と発表された。

平成一〇年、「まちづくりしてみたい人大集合」との隊員募集に大勢の人が集まった。当時まちづくり推進課にいた伊藤達史さんは、「今までは行政が仕掛けてきたが、これからは市民の自発性を育てることを大切にしたいほうがいいと考えた」とまちづくりしてみ隊結成の思いを振り返った。

まちづくりしてみ隊に集まった人たちは、五つの隊に分かれた。区の達人を発掘する「みやぎの考案隊」、人と人をつなぐために広報誌発行、イベント開催をする「豊かな人づくりし隊」、道を通して歴史、文化、自然を考える「宮城野みちくさ」、金管バンドを通してまちづくり活動をする「MBC(みやぎのプラスバンドクラブ)」。それからいずれの隊にも当てはまらない人たちの集まり「奇想天街」だ。奇想天街は他の四隊と違い統一テーマがあるわけではなく、個々人の想いを一つにまとめるのが大変だった。小松さんは振り返って言う。「机の上の議論ではまとまらないし、気心も知れない。まちづくりの経験のある人もいれば



初体験の人もとちゃ混ぜ隊。それでは初めにイベントをやって一つにまとまろうということになった」。そして計画されたのがちよこっと早い節分まつりだ。

「どうせなら景品もほしいね」露店も出したいよ」と次々にアイデアが出された。しかし、アイデアは出されても何処も同じ、先立つものがない。ここでものを言ったのが隊員たちのネットワークだ。次々に協賛企業を探し出し、ハードルを跳び越えていった。

「これしかお支払いはできない、だけどこれだけほしいんですって言うんですよ」と小松さん。「あなたたちもボランティアでやっているんだから俺たちもボランティアで手伝うぜ!」というのが協賛企業の姿勢なのだ。「なんとかやれるもんだな、というのが最初の感想でした」と笑う。お金があればあるだけのことはできるかもしれない。大きなこともできるだろう。しかし、ないものはない。無から有を生むには「人」そして「つながり」を活かして、みんなで一緒にまちづくりをやるという意気込みでやり通してしまおうこと。そんな感じが奇想天街の人たちからはひしひしと伝わってくる。

自分たちが楽しくなければ相手にも楽しさは伝わらない。できるときにできることをやればいい、無理をしない、この姿勢が五隊の中で唯一残った隊の所以のようだ。「自分たちだけで固まらないでいろいろなつながりを持つことが長続きのコツかな」とメンバーのひとりが囁いてくれた。

■事務局Ⅱ宮城野区まちづくり推進課

TEL 〇二二―二九一―二二二― (内六―三三七)